

自主性・自己表現力を育てる日々の生徒指導

服部 直孝（杉並学院中学・高等学校）

はじめに

明治大学文学部在学中は、部活動に情熱を傾け、勉学に全力を傾けたとはとても言えない私だが、多くの先生の支えのもと無事に教員免許を取得し、教職に就くに至った。奉職した私立中高(菊華中学高等学校、現杉並学院中学高等学校)は、私の奉職後すぐに入学生が激減し、同時に諸般の事情で校舎新築計画が一時停止するなど、順風満帆なスタートではなかったが、教員同士のチームワークは良く、多くの困難を乗り越え、今は生徒数が1300名を超え、地域から一定の評価をいただく学校へと成長した。

私も奉職後の十八年間で、学生時代の勉強不足を補うように教科指導について研究し試行錯誤する一方、校務分掌においても、教務部、進路部、生徒指導部、生徒会、情報係、広報委員など、学校運営の上で大切な仕事をバランスよく担当させてもらい、学校に育ててもらったと言って良い。時にグループのリーダーとなり、時に歯車となりながら、生徒の成長と学校の発展を願って、指導や運営に取り組んでゆくことは本当に楽しく、他校同様に長時間の時間外労働はあるものの、この職を選び良かったという思いを折々かみしめているのである。数年前からは、中堅の教員として、進路部主任や生徒会主任を拝命し、生徒の指導とともに若い後輩教員の指導や職場のチーム作りも自分の大切な役割と感じている。また26年度は高校の学年主任となり、大きな目標を3年間のスパンでどう実現するか、毎日心を砕いている。今まで以上に悩みの多い、しかし学びの多い日々である。

このように自分の仕事にやりがいを感じ使命感を持って取り組んでゆけるのも、明治大学において教職課程と出会い、良き師と出会ったからこそであり、熱心に指導いただいた別府先生を始めとした明治大学の先生方には、感謝してもしきれないほどである。

前置きが長くなったが、上記のように私は全くの「現場の教員」であり、指導の最前線に立っていると自負している関係から、今回の私の発表は、「教育実践の報告」の域を過ぎないかもしれない。内容においては、多くの先生が悩み既に解決法を見出した内容などもあるかもしれない。また、教育方法の理念などに詳しい諸先生方から見ると回り道をしているような点もあるかもしれない。私に取り組んだことや工夫したことほんの少しでも、日々指導に努力なさっている現職の先生やこれから教員となられる学生の方々の指導のヒントになれば幸いである。

(以下、分科会発表レジメに加除訂正を加えて、報告にかえさせていただきたい。)

1 目標とする教育・指導

- (1) 生徒の自主性を引き出す教育。
- (2) 豊かな自己表現を身につける指導。
 - ・何をしたらよいかを考えさせる。
 - ・どう言えば良いのかを考えさせる。

2 私の学校観

- (1) 社会で自分がどう生きてゆくかを考える場
- (2) 社会にどう自分を合わせるか学ぶ場
 - ・自分を表現し、自己を主張する
 - ・相手の意見を聞き、相手に譲る。
 - ・反省して自分を見つめなおす。

3 勤務校の現状

- (1) 公立中学出身者が 90%超。
- (2) 入学者の約 80%は都立高校第一志望の生徒。
 - ① 併願の多い都立高校は、豊多摩・小金井北・調布北・杉並・神代・井草
 - ② 入学時には、「都立だったらこうではなかった」と、学校で起こる様々なことを否定的にとらえる生徒もいるので、この学校に入って頑張ろうという気持ちにさせる指導を心掛けている。
 - ・どの教員も生徒を「モードチェンジ」させる方法を工夫している。
- (3) 進学指導が重視される一方で、部活動や行事も非常に重要視されている。
 - ① 「部活動は聖域」と見なされている学校と、「部活など遊び」と教育的価値を低く見ている学校とで、大きく分けられるように思う。
- (4) 教員のチームワークは良いが、長時間の時間外労働が常態化している問題もある。

4 私の指導実践

- (1) クラス指導において
 - ① 提出物の徹底管理〔生徒個人に対する指導〕
 - ア 保護者が出すべき提出物でも管理するのは生徒という考え方を徹底。
 - イ 提出期限の遅れは必ず責任を取らせる。
 - ウ 名前や出席番号の書き落としは必ず生徒に直させる。
 - エ 提出の際には必ず一言添えさせる（「お願いします」「遅れてすみません」）
 - オ これらを通じて、学校生活の主体は自分だということを教える。
 - ⇒どの指導においても同様だが、失敗を認めない姿勢が強調されすぎると生徒は萎縮してしまい、主体性を発揮しなくなるので「サジ加減」が大切。

② 行事などの自主的運営〔中くらいの生徒集団に対する指導〕

ア 事前準備と段取りこそ最大の学びの場面。

イ シミュレーションと事前準備は徹底的にやらせる。

ウ 10人前後のグループに分けて、その中にリーダーを作る。リーダーに考えさせ、指示もリーダーに出す。

⇒例) 移動教室・文化祭の係分担・大掃除の分担など。

エ 外部の業者などを使う場合(T シャツ業者・レンタル業者など)は、職員室で生徒に電話をかけさせる。事前に何を聞き伝えるかを言わせて、言葉遣いや内容にアドバイスする。

オ 担任は、生徒「行きあたりばったり」の放漫運営にならないように目を配る。

(ア) 上記は(例)であり、生徒個人の能力や傾向、集団の雰囲気などを見て学びの多い課題を与えるようにしている。

(イ) 行事だけでなく、学校生活のいろいろな場面で応用している。

(ウ) イベントが成功することも大切だが、イベントを通じて生徒の学び・成長がおこることが何よりも大切。体裁を気にするばかりで生徒の成長のことを教員が本心から願っていないと、生徒はそのことに気づき指導が表面的なものに墮するようになる。

③ 受験指導〔生徒個人に対する指導〕

ア 初めから「教員は何もしてあげられない」ということを宣言する。

イ 出願指導では、教えるというよりも、生徒の考えた受験計画や書いた出願書類の不備に気付かせる。

ウ 調査書の所見欄も自分で原稿を持ってこさせる(その通り書くかどうかは別に判断)。

エ 無計画を戒めるため、調査書の即日発効は出来ても受け付けない。

④ その他のクラス指導

ア 欠席したら、次の日は、朝一番に一言報告させる。(体調が戻ったのかなど)

イ 何か言う時は、相手に伝わる表現をさせる。何を言いたいのが推測出来ても自分でしっかり表現することを求める。

ウ 誰かから注意を受けることに慣れていない生徒が多い。教員から注意される機会は、自己表現を学ぶ良い機会なので、どう振る舞うべきか、なぜそうなのかを丁寧に説明する。

⇒「ダメなものはダメ」的な指導の方が効く時もあり、根拠を明らかにして指導するのが常に効果的な訳ではない。ただし、教員側は常に、なぜその指導をするのか、その指導が目指す生徒像はどのようなものなのかを冷静に考えながら指導に当たらなくてはならないと、私は考えている。

エ 先生不在で机の上に提出物などを置いて行く場合には一言メモを添えさせる。

オ 相手に合わせて、ことばづかいを変えることの指導も力を入れている。

(2) 生徒会指導〔大きい生徒集団に対する指導〕

① 執行部生徒の指導

- ア 委員会の日程調整・場所取り・一般生徒への告知・当日の運営・各団体の利害調整・部活動や委員への注意など、行事運営のすべてを生徒にやらせる。
- イ 普通の生徒が支え合って大きな仕事をするという意識を持たせるようにする。
⇒「一部のエリート生徒を育て、有能な管理者にする」という指導も可能だが、そういう指導の元では、執行部生徒が特権意識を持ち暴走しがちになり、冷静な自己認識と反省の姿勢が失われ弊害が大きいように感じる。
- ウ 普通の生徒が支え合うために分業し、自分の仕事にはしっかり責任を持たせる（裁量を与え、責任も持たせる）。
- エ はじめて委員会を仕切る時などは、リハーサルまでやらせて、いかに事前準備とシミュレーションが大切かを感じさせる。

② 生徒会役員選挙

- ア 執行部生徒ではない一般生徒が運営するので、課題の設定（何をどうやらせるか）が非常に大切。
⇒動機付けも大切。「係長を引き受けたクラスは文化祭での使用教室の優先権が得られる」などの実利的なインセンティブを与えていることは、ボランティア精神に反するが、社会の役に立つ者が実利を得るということを教えることに繋がる。また、実利を得ようとして一所懸命努力することが学びにも繋がっている。
- イ 役割分担と仕事内容は教員側で考える。それをどのタイミングでどうやるかは、生徒に考えさせる。

③ 文化祭

- ア 執行部による保健所・消防署などへの連絡、交番への挨拶なども、生徒が電話をかけ日程調整をし実際に挨拶や打ち合わせに行く。
⇒教員は同行する。日程調整や挨拶は、教員がやった方が何倍も楽だし、先方も安心するが、関係機関には趣旨を理解していただき協力いただきたい。生徒にやらせつつも、「生徒の後ろには先生がいる」と先方に感じさせることが大切。それがないと、生徒からの連絡を受ける関係機関は不安に思い、学校に対する不信感にも繋がる。
- イ 文化祭参加希望団体は、プレゼンテーションにて選考。参加団体のセールスポイントを考え、それを伝える作業をさせる。
⇒企画がまとまっていない団体や、プレゼンテーションが一定水準に達しない場合は出店を認めない。
- ウ 一般生徒も生徒会役員にもルールは厳守させ、ルール違反は厳しく対応。
- エ 事前準備とシミュレーションの大切さを強調、思いつきで変更することはダメだということに指導の力点を置く。

5 指導上の留意点

- (1) 上手く学びが起こるかどうかは、生徒の実情に合った課題設定がカギ。
 - ① 生徒に「自分たちが“すべて”行った」と成功を実感させたい。
 - ② 教員の指示が細かすぎる⇒「やらされた」となる。萎縮して消極的になるおそれもある。
 - ③ 教員の指示が大まかすぎる⇒行き当たりばったりの放漫運営になる。「適当にやってもどうにかなる」という良くない経験則を身につける。
- (2) 成長することに夢を見させる・自尊心をくすぐる。
 - ① 出来るようになったことがどれだけすごいのかや、社会や世界との関連づけを少し大きめに話すなども効果的。
- (3) 小さな成功体験をさせて次のチャレンジを導き出す。
 - ① 「難しいことに取り組んで、もがきながらも解決することこそ面白い」と感じさせることで自主性が生まれてくる。
- (4) なぜそれをすべきかの理由を丁寧にことばで生徒に伝えることも大切。
- (5) 叱ると褒めるをバランスよく使う。

6 まとめとして

教員の仕事は、子供を育てることで、未来の社会を作る仕事。

実際の現場は、不登校生徒への対応や、保護者の要求に丁寧に応え学校の立場を説明したり、事務仕事も多く、マルチタスクが要求される。

生徒の成長を実感することは楽しく、やりがいになっている。